



住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階
TEL: 03-3639-3110 FAX: 03-3639-3112

2021年3月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
28	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

休診日 午後休診 18時最終受付

一般外来	9:30-12:00	16:00-19:00
発熱外来	12:00-13:00	15:30-16:00

1. 内科・生活習慣病

2. 心臓病・糖尿病

3. 睡眠時無呼吸症

4. 土曜日診療

5. 発熱外来



ホームページ
院長ブログ公開中

花粉症対策もおまかせ下さい

「今月の言葉」

夢を見るから、人生は輝く
(モーツァルト)



お知らせ

6日(土) 11時最終受付
11日(木) 18時最終受付

<発熱外来>

電話でのみ予約を受け付けます
非常階段からのご案内となります

- ・時間 12:00~13:00、15:30~16:00
- ・受診の目安
①37.5℃以上の発熱②咳やくしゃみ
③インフル・新型コロナが心配の方

今回は発表会を最後まで聴きました。最後の方は趣味で習っている社会人の方たちで、なかには素人の域を超えたハイレベルの演奏もあり、特にベートーヴェンのソナタの魂がこめられたような熱い演奏には深く感動しました。私が発表会のステージに出ているのは小学6年生までで、その後は大学や社会人のオーケストラで演奏会には何度も出演していますが、観客の前に独奏での演奏はそれこそ40年以上行っておりません。大人になって人前でソロで演奏することはどれほど大変なことかと尊敬の念に堪えません。音楽は本来、競争ではなく、人生を通して楽しむ素晴らしい宝物だという、先生の懐の深さを感じる発表会でした。

ところで演奏会の本番では思いもよらないことが起こることがしばしばあります。2019年のチャイコフスキーコンクールのピアノ部門ファイナルでは、中国の安さんの演奏でオーケストラが本来1曲目に演奏する予定であったチャイコフスキーの「ピアノ協奏曲」と2曲目の予定だったラフマニノフの「パガニーニの主題による狂詩曲」の順番を取り違えて、ラフマニノフの前奏を始めてしまい、安さんの「!!!???」という驚愕の表情は忘れられません。それでも安さんは、オーケストラの演奏を止めることなくピアノを演奏を始めました。その後、演奏中の安さんがしばらくの間怪訝そうな顔で弾き続けたことで、彼の名はアクシデントとともに一躍有名となりました。

ヴァイオリニストの五嶋みどりさんは、14歳の時にタングルウッド音楽祭でバーンスタインのセレナードというヴァイオリン独奏の曲をオーケストラと演奏中に、ヴァイオリンの弦を一度ならず二度切ったことがあります。とっさの判断で、背後のヴァイオリン奏者と楽器を交換して、最後まで見事に弾き終えました。この奇跡の演奏は今ではYouTubeで見ることができますが、楽器を取り換えた後、少しの合間に肩当てを自分のものと取り換えたり、指揮を続けるバーンスタインも弦が切れた彼女の様子を見て、ほんの一瞬オーケストラの休符を長めにとったり、それにオーケストラも応えるという、まさに絶妙な阿吽の呼吸のような大変スリリングな状況でした。さらに驚くことに、当時彼女は(まだ体が小さかったため)フルサイズの楽器ではなく3/4というサイズのヴァイオリンを使っていたが、交換した楽器は当然、大人用のフルサイズの楽器であり、いつもより大きな楽器で難曲を弾ききったこととなります。わずかに14歳でこのようなとっさの判断と、ピンチを見事に乗り切ることができた五嶋みどりはやはり神がかった天才としかいいようがありません。

発表会や演奏会には録音の演奏とはちがうライブ感、その時にしか味わえない、緊張や驚き、言葉にあらわせない感動があり、いつも楽しみにしています。娘の発表会も最後の奏者の演奏を聴き終え、高揚感を胸に会場をあとにしました。

文責 齋藤 幹

さいとう内科・循環器クリニック @237gsvtx LINE公式アカウント



発表会を終えて

私事ですが、先月、娘のピアノの発表会がありました。娘は4歳からピアノを習っており、毎年この時期に発表会があり、今回で10回目の出演となりました。娘のピアノ教室は母娘が親子で講師として主催しており、約80人名の生徒が所属しています。プログラムの順番は基本的には学年順なので、娘も初めての出演の時はプログラムの2番でしたが、中学生となった今年はプログラムの63番でした。

こちらのピアノ教室でいつも感じるの、年齢層、レベルの幅広さ、曲目の多彩さです。一般的にピアノ教室は子供達メインの教室であったり、趣味の「大人のための～」であったり、音楽を専門に目指す学生が主であったり、ある一定の傾向があるように思います。しかしこちらの教室は年齢は3歳から中高年まで幅広く、プロを目指している人もいれば完全に趣味の人もいます。また、曲目もクラシックからポピュラー音楽まで多種多様です。娘もいつも発表会の曲は先生と相談して自分の弾きたい曲を選んでいきます。

私が小さいころ習っていたヴァイオリン教室では発表会の曲は先生が決めるものであって、あまり気に入らない曲でもそれを渋々やるしかありませんでした(笑)

演奏順も学年順というよりは進捗順で、熱心で頑張っている生徒はプログラム後ろの方、そうでない生徒は学年が上でもプログラム前半で演奏することが常でした。学年が上がっても前半で弾くというのは何とも言えずに屈辱的なことです。今から思うと、もしかすると生徒を発奮させるという先生の意図があったのかもしれない。

